

第4回 長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞授与式及び受賞者研究発表会

長崎大学は、平成28年度に、優れた研究成果を挙げた本学の若手女性研究者を学長より顕彰する「長崎大学未来に羽ばたく女性研究者賞」を創設しました。

これは、優れた研究結果を挙げた長崎大学の若手女性研究者を顕彰することによって、研究意欲を高め、学術研究の将来を担う優秀な女性研究者の育成及び男女共同参画の促進を目的としています。令和元年7月8日から令和元年8月30日に公募を行い、選考委員会において慎重に選考を行い、優秀女性研究者賞および優秀女性奨励賞受賞者を決定いたしました。

第4回受賞者研究発表会および授与式は、令和2年1月8日13時から、文教キャンパス第一会議室において、執り行いました。出席者33名で、報道機関からの取材もありました（長崎新聞社）。

〔受賞者〕

優秀女性研究者賞 南保明日香（感染症共同研究拠点 教授）
優秀女性奨励賞 金禧珍（総合生産科学域水産学系 准教授）

1. 開式挨拶および趣旨説明（吉田ゆり副学長／ダイバーシティ推進センター長）

吉田ゆり副学長から、ご列席いただいた方々への御礼と本研究者賞趣旨並びに概要説明がありました。これまでの受賞者の研究分野にも触れ、受賞者の研究分野が多岐にわたってきていること、第4回目の本年度は応募者も多く、厳選な審査を行った旨など話されました。

2. 受賞者研究発表

優秀女性奨励賞 総合生産科学域水産学系 金禧珍 准教授

金先生は水産増養殖の現場で餌料生物として用いられる動物プランクトンの生物機能解明と仔魚飼育への応用について研究をされています。今回は「光環境が動物プランクトンに与える影響」と題してご発表をいただき、動物プランクトンのうち終生プランクトンといわれるワムシ類、カイアシ類において光照射の条件によって走向性、生殖行動に促進的に働くことを明らかにした、という研究に関してお話いただきました。

今後の専門分野での研究の展望に加えて、グローバル社会へ貢献できる人材を育成するという観点から、韓国仁川大学との共同研究において、学生の学術研究に加え文化的交流も考えている旨話されました。

発表後の質疑応答では出席者から多くの質問があり、丁寧にご回答いただきました。



優秀女性研究者賞 感染症共同研究拠点 南保明日香 教授

南保先生は基礎ウイルス学がご専門で、エボラウイルス並びに Epstein-Barr ウイルス（EBV）を対象に、疾患を引き起こすメカニズムの解明を目的として研究をされています。

今回は「ウイルス関連疾患の制圧を目指した感染機構の分子基盤の解明」と題してご発表いただき、「EBV 感染細胞が放出するエクソソームの機能解析」「エボラウイルス感染の宿主細胞への侵入機構への解明」等についてお話いただきました。

最初に研究歴をお話され、今の研究に興味関心を持ったきっかけにも触れられました。また、先生の研究のテーマであるウイルスについてのわかりやすい解説もありました。

今後、エボラウイルス制圧を目標とした治療法の開発、EBV 関連がん発症機構の解明を行いたいと展望を話されました。研究活動に加えて教育活動もなさっており、今後 BSL-4 施設においても研究と人材育成を行っていくと述べられました。またこれまで研究を通して多様な女性研究者とのネットワークを構築してこられたこと、今後もそのネットワークの研究者との共同研究を予定していること、これまで出会ったロールモデルの先輩方を目指したいということも話されました。

発表後の質疑応答では参加者からは専門的な質問が多く寄せられました。



3. 授与式

河野学長から受賞者のお二人に、表彰状、研究費としての副賞の目録、記念の盾が贈られました。

4. 総評（河野茂学長）

河野学長は、お二人のご研究への所感等述べられた後、大学全体の今後の方向性として、大学として生き残っていくにはずば抜けた研究力がなくてはならないこと、従来通りの事をしてはやっていけないこと、受賞者お二人のような多様なバックグラウンドを持つ研究者に、今後も長崎大学に来ていただきたいことなどを話されました。

5. 閉式の言葉（福永博俊理事）

ご自身の留学体験や海外の研究機関との共同研究から日本の男女格差や女性活躍がまだまだ発展途上であるということを感じているということに加え、将来的にはこのような賞を設立しなくてもよい世の中になることを願っている旨を話されました。



（写真左から、吉田センター長、河野茂学長、南保明日香教授【優秀女性研究者賞受賞】、金禧珍准教授【優秀女性奨励賞受賞】、福永博俊理事、中島ゆり副センター長）